

## ご挨拶（後援会会員の皆様へ）

東北大学医学部後援会会長

舟山 眞人

まずはじめに、このたびの東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。医学部にも被災地出身の在校生が多数おります。

後援会では被災された在校生の会員のご家庭を対象に、些少ではございますが、お見舞金を支出させていただきました。

新入生会員の皆様に対しては、本来であれば、入学記念祝賀会を開催し、ご父兄・新入生、そして教員の方々の間で楽しい交流の場を持つはずでしたが、なにぶん震災後間もない頃でしたので中止に至ったこと、ご理解の程、お願い申し上げます。

医学部教務係が中心となって在校生の無事を確認した後も、その後の学生生活がどのようになるのか心配されましたが、多くの学生さんが積極的にボランティア活動に参加し、また、1か月遅れの新学期スタート時には、普段どおりの落ち着いた顔で授業を受けていたという知らせに、まずは一安心というところです。ただ、今後もやや大きな余震の可能性もあるということなので、油断せず、本棚の転倒防止や若干の電池や水、食料品の蓄えなど、多少の備えをしておくとともに、時々、親子で確認することも必要でしょう。

さて、新しい会員のご父兄の皆様に向け、少し後援会活動のお知らせをしましょう。学生さんの教育活動に関わるこ

とは、原則的に大学側が負担するわけですが、中にはその負担に限界があったり、そもそも資金提供自体が難しい事業も少なくありません。例えば、前者であれば図書館経費があります。ネットで閲覧可能な電子ジャーナルは、実は海外の出版社に対し大学側がかなりの支出を強いられ、その結果、学生さんに対して十分な参考図書の購入がままならない事態となっています。

そこで、後援会から使用頻度の高い参考図書の寄附を行っています。一方、後者の例として、新入生が全員参加する、アドバイザー教員とのオリエンテーションでの昼食費を中心とした支援、あるいは7月末に行われるオープンキャンパスに参加するボランティア学生さんへのユニフォーム製作代の援助などといったものが挙げられます。このように毎年、10前後の事業について、着実な支援活動を行っています。

このように私たち後援会は、学生さんの教育及び課外活動に対し、出来る限り応援をしていきたいと考えております。これまでの活動については、東北大学医学部後援会のホームページ内の会報の中でいろいろ紹介しておりますので、ぜひご覧いただければ幸いです。また、後援会に対してご質問やご要望等がございましたら、お気軽に後援会事務室までご連絡くださるようお願い申し上げます。

## 後援会会員・学生の皆様へ

東北大学医学部長・医学系研究科長

山本 雅之



東北大学医学部後援会の皆様と学生諸君に、医学部の現況と今後に向けた取り組みをご報告いたします。稿を始めるにあたって、今回の東日本大震災で被害を受けた方々、ご家族をなくされた方々に、心からのお見舞いを申し上げます。

幸いなことに、今回の大震災に際して、本医学部・医学系研究科の学生や教職員には、怪我人や死亡者が1人も出ませんでした。今から33年前に起きた宮城県沖地震の際には、建物が壊れたりブロック塀の下敷きになったりして、仙台市内で多くの方が怪我をしたり、亡くなったのをご記憶の方もおられると思います。今回はそのときより大きな地震でしたが、建物崩壊や塀の下敷きとなって怪我をしたり、亡くなられたりした方はいませんでした。この間に建物の耐震補強が進み、震災対策が進んだものと思います。東北大学医学部でも、研究安全推進室をつくり、各分野に研究安全担当者を配

置するなど、災害対策を強化してきました。また、防災マニュアルを改訂し、産業医や安全管理者による巡視も頻回に行ってきました。このような安全対策強化を進めてきたことが功を奏した点もあると考えています。

とはいえ、設備面での被害は決して小さくなく、本医学部と大学病院の被害総額は約40億円に上り、未集計も含めるとさらに増える可能性があります。特に、医学部の中で最も古い1号館と3号館では、建物に大きなひびが入る、エレベーターが使えなくなる、屋上の給水塔が壊れるなど大きな被害が出ました。一般的なことですが、低層階に比べて高層階の研究室に被害が集中しました。特に、顕微鏡など構造的に落下し易いものが大きな被害を受けました。今後は、重実験装置は低層階に設置するなど、より地震に強い研究体制作りを検討しなくてはならないと考えています。

震災直後、東北大学全体として、学部学生は帰省、大学院学生もなるべく帰省という方針がとられました。しかし、復旧は自らの手で行わねば進みません。医学部・医学系研究科では、一刻も早く元通りの活動に戻ることを目指して、教職員や学生が一体となって早期から復旧に向かって動き出すことを決心しました。ライフラインが復旧していない状況でしたが、教職員には早期から大学へ出勤して頂き、また、帰省した学生にはなるべく早く仙台に戻ってきてもらって、復旧作業を進めました。災害対策本部も震災直後に立ち上げ、学生と教職員の安否確認、学生や教職員に対する正確な情報発信、そして、外部への広報活動を重点的に行いました。学部学生には、積極的にボランティア活動に参加してもらいました。震災直後は食べ物も簡単には手に入らない状況でしたので、最初の頃は災害対策本部で食料を調達して、炊き出し支援を行いました。

東北大学医学部は、「研究第一主義」を掲げ、素晴らしい最先端医学研究の成果を次々と世界に発信してきた歴史があります。一方、東北地方の基幹病院は、私たち医学部の卒業

生が地域の医療を守るために作ったものが多いことも事実です。これもまた同窓生の皆様が成し遂げてきた立派な実績です。今回被災した地域は従来から医師不足でしたが、東北大学医学部はその地域の医療の再生に向けて全力で取り組みたいと考えています。高度情報化社会に対応すべく、メディカルインフォメーションを駆使した、新しい地域医療のモデルとなるような病院・診療所システムを構築することが大切です。また、最先端研究基盤の整備を行い、復興の「核」となるような新たな研究拠点を東北大学医学系研究科に作り、最先端研究の成果を次々と世界に向かって発信していくことも大切です。

以上の2つのことを、学生や構成員の皆さんと力を合わせて成し遂げていきたいと考えています。

東日本大震災後、全世界から支援物資を送って頂き、また、「実験設備が復旧するまでの研究支援」といった温かい申し出も多数頂きました。心温かいご支援に感謝しています。このようなご支援に応えるべく、私たちはいっそう頑張っていかなければいけないと考えています。

## 東北大学医学部医学科の使命

東日本大震災とそれに伴う巨大津波により犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の意を表します。また、ご遺族、そして被災された多くの皆様が一日も早く平穏な日常を取り戻すことができることを切に願っています。

東日本大震災と巨大津波による甚大な被害を考慮し、平成23年度新学期の開始が4月25日に延期されました。当然ながら、平成23年度東北大学入学式は中止となり、入学式後に予定されていた医学部後援会主催の入学記念祝賀会も中止になりました。未曾有の自然災害が原因とはいえ、新入生の皆さん及びご父兄の皆様には大変なご心配とご迷惑をおかけしてしまったことをお詫び申し上げます。

そこで、医学部医学科の被災状況と震災対応について簡単にご報告させていただきます。

○学生の被災状況：医学部の在学学生及び新入生は全員無事です。教職員にとっては何よりの朗報です。しかし、津波や原発事故により実家が被災した学生は多く、被害は甚大です。そこで、面談等を通じて、学生の状況を把握すると共に、医学部への義援金（東北大学医学系研究科震災復興助成金）を活用させていただき、被災学生の支援にあてました。多くの寄附者の皆様に心よりお礼申し上げます。

さらに、医学部独自の良陵育英奨学金（昭和40年制定）の対象者を被災学生にも拡大し支援を行いました。今後も被災学生を継続的に支援していく所存です。

○大学施設の復旧状況等：学生が使用する講義室、実習室等の安全はすべて確認済みです。さらに、原発事故直後から、大学独自に空気中の放射性物質の計測を継続しており、学生・教職員の安全の確保に努めています。

東北大学医学部医学科長

柴原 茂樹



○教育カリキュラムの状況：約1か月の休校措置にも関わらず、すべての講義と実習が順調に進行しています。なお、新学期開始の4月25日には、医学科の全学年（2-6年次）を対象に震災特別講義を企画しました。すなわち、犠牲者の皆様に黙祷を捧げた後、石巻赤十字病院の院長・飯沼一宇先生（本学名誉教授）には災害医療に関し、また、前・本学放射線科・山田章吾教授には原発事故に関し、そして、山本雅之医学部長は医学部の復興に関して講演されました。さらに、5月6日の新入生オリエンテーションの際、新入生に対しても同様な企画を実施いたしました。

東日本大震災を経験し、東北大学医学部医学科が担う社会的責任を再認識いたしました。医学科の使命は、豊富な知識と技術に裏打ちされた暖かい人間性と高い倫理観を有する医師を育成することです。

医師たる者には種々領域でのリーダーとして、幅広い見識と深い洞察力が求められており、本医学科では、学生の真理への探究心を育み、問題解決に向けての実践能力を育む教育を推進しています。一方、人類の幸福に資することができる人材の育成には、学生自らも向学心に燃え、能動的に学習することが必須です。

そこで、教員と学生が互いに協調した教育カリキュラムを編成し、学生の豊かな人間性と実践能力の育成に努めてきました。事実、東日本大震災という非常事態においても、本医学部の卒業生及び医学部・大学病院は迅速かつ的確に対応し、被災地域における医療の実践と復旧に多大な貢献をしました。現在も広大な被災地域における医療体制の復興及び新

たな医療体制の構築への協力を継続しています。

今後は、災害医療現場での経験を活かし、地域医療教育をさらに充実させる所存です。優れた臨床能力の基礎は地域医療現場で育まれると考えています。

東北大学医学部後援会の主な目的は、教育環境の整備と学生が参加する臨床修練や課外活動等の支援です。医学科の教育理念と医学教育をご理解いただき、医学部後援会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 後援会会員の皆様へ ―震災から5か月経って―

東北大学医学部保健学科長

吉沢 豊子



3月11日の東日本大震災から既に5か月が過ぎようとしております。東日本大震災によって被災されました皆様には、謹んでお見舞い申し上げますとともに、亡くなられました方々の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

また、この大震災により医学部学生の保護者の皆様のなかに、甚大なる被害を受けられた方がおられたことから、東北大学医学部後援会から、会員の子弟である学生にお見舞いを頂戴いたしました。皆様の心温まる心遣いに変感謝いたします。

さて、医学部保健学科を代表して、この5か月の取り組みについて説明させていただきます。3月11日は既に大学は春休みに入っており、ほとんどの学生は帰省していました。また、4年生は国家試験を終え、つかの間の自由時間を海外へ出かけたり、国内旅行をしたりと楽しんでおりました。そんな矢先の大地震でした。

大学は学生の安否確認から始めていき、1週間もたたないうちに保健学科の学生は全員無事であることが確認されました。不幸中の幸いといしか言いようがありません。学生、教員とも無事であることを喜び合い、復旧にそして復興へのビジョンを描き始めていました。しかし、残念なことに4年生が楽しみにしていた卒業式はすでに中止が発表されておりました。ある4年生からは是非集まれる学生だけでも卒業式を行いたいとの申し出があり、この熱い思いにこたえるため、医学部長にお祝いの言葉をいただき、仮の卒業証書と花屋から式の1分前に届いた花束を添え、教職員の協力を得て卒業セレモニーを行いました。

4月に入り、新学期の準備が始まりました。この時保健学科では、学業開始に当たり、3学年全員にチューターによる電話訪問を行っています。

ここで、はじめて家族の様子、家屋の状態、今後の不安、現在のメンタルな部分など詳細に全貌が見えてきました。経済的問題は学生の学業継続の有無にもつながる深刻な問題でした。早急に学生への経済的援助などに着手いたしました。

5月6日いよいよ新学期、全学の入学式は実施いたしましたが、総長のビデオメッセージから学部毎のオリエンテーションという形で始まりました。

保護者の皆様方は、ご子息、ご息女の晴れの姿という思いを呑み込んで送りだして頂いたのではないかと思います。当然、恒例になりました医学部後援会主催の祝賀会も中止となりました。私どもも保護者の皆様と交流を深める唯一の機会であっただけに残念でなりません。ただ、後援会のご支援で行っている新入生と教員との昼食会は行われ、1か月遅れの新学期の意気込みを共に分かち合いました。8月変則的な夏休みとなっております。10月には偶数セメスターがスタートし、学生たちはふだんと変わらない学業生活に戻っていくこととなります。ただ、大震災の傷跡は、まだまだ学生たちの心身に影響を与えられそうです。我々教職員一同は、これからも学生たちに様々な形で支援を続けていこうと思っております。今後とも宜しくご協力お願い申し上げます。

## 一研究室（分野）紹介一

### 創生応用医学研究センター・発生発達神経科学分野

創生応用医学研究センター

講師 勝山 裕

☆東北大学医学部医学科においては、低学年のうちから研究に触れる機会を設け、リサーチマインドの育成を心掛けています。

医学科1年次向けに実施してきた「研究室門戸開放」を今年度から2年次学生にも開始しました。今回は、基礎医学分野から発生発達神経科学分野及び臨床医学系分野からてんかん学分野について、学生の訪問の様子を含めた研究室紹介をいたします。

☆胎児期の神経系発生過程では、幹細胞の増殖とニューロン分化が高度に制御されることで脳の機能が獲得されていきます。また、近年、胎児期に限らず、成体の脳においても神経細胞が産生されていることが明らかになりました。成体脳の神経産生は脳の活動や体の内外の環境要因によって影響を受けます。更に神経新生の低下がうつ病などヒトの精神疾患に大きく関わっていることが報告されています。

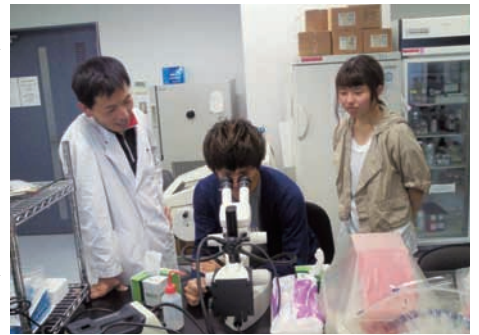
☆発生発達神経科学分野は、神経分化や幹細胞の増殖に必要とされる遺伝子機能の解析によって、神経産生を制御する分子機構の一端を明らかにしたいと考えています。また、それら遺伝子に変異を持つ実験動物を用い正常な神経細胞の産生や形態形成が脳機能のこういった側面に関わっているか調べています。

この様な研究からヒト精神疾患の発症機構の解明や治療技術の開発と言った医療応用への貢献が出来ると考えています。例えば、我々が解析を行っている Pax6 や Reelin と呼ばれる遺伝子は無虹彩症や滑脳症と言ったヒトの先天性疾患の原因となっています。我々は遺伝子改変や遺伝子導入を行った動物の脳の組織学的変化や遺伝子・タンパク質の発現を解析することで、これら分子の脳における機能を調べています。興味深いことに Pax6 や Reelin などの発生学的な遺伝子が胎児期に働いているのみではなく、成体脳の神経新生などに関与することが分かってきました。

これら遺伝子の発現低下によって、うつ病や統合失調症に類似した行動異常が実験動物において観察されます。この事実は発生学的分子機構が働き続けることで脳が機能しており、脳や神経細胞の発生発達の小さな障害の蓄積によってヒトの精神疾患が起こるとする仮説を想起させます。

☆我々の研究グループでは、面白くて、かつ役に立つ研究をするということを目指としています。「面白い研究」とは、解かれていない重要な課題を発見し、独自のアプローチによって答えを見出していくことです。

「役に立つ研究」とは、真に人類の福祉に関



医学科2年生に研究内容を説明

わる問題に対して、革新的な解決策を生み出すことです。研究室門戸開放に際して、見学に来られる学生には脳、神経細胞の発生発達研究が具体的にどのような実験設備、実験操作、技術によってなされているか実際の研究の場で目の当たりにし、説明を聞き、いくつかの実験操作を行うことで、基礎医学研究についての理解を深めていただきたいと思います。

## 一研究室（分野）紹介一

### 保健学科・緩和ケア看護学分野

医学部保健学科看護学専攻

教授 宮下 光尚

助教 佐藤 一樹

緩和ケアとは、「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処（治療・処置）を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチである」と定義されています。

具体的には、がん患者さんの痛みや苦痛を和らげるための看護、こころのケアなどに関わる教育・研究を実施しています。緩和ケアは平成18年に成立した「がん対策基本法」に伴う「がん対策推進基本計画」で日本のがん対策で重点的に取り組むべき分野として明記され、わが国でも広く認知されるようになりました。

しかし、現状でも体や心の苦痛に苦しむ患者さんは少なく、それを和らげるためのケアの開発やシステムづくりは喫緊の課題です。また、緩和ケアにおいては看護師が重要な役割を持っており、一人一人の患者さんを全体として捉え、その人の意思と尊厳を尊重したケアを行うことが重要です。このことは、がん診療連携拠点病院では緩和ケアに携わる看護師を配置することが必須化されていることから見取れます。

本分野では教授1、助教1の体制で教育にあたっており、平成23年度の学生は大学院博士課程1名、修士課程2名、卒業研究学生10名の学生を指導しています。

本分野の研究課題は「がん患者さんの療養生活の質の評価

方法の確立」「がん患者さんの療養生活の質を向上に向けた支援方法の開発」「緩和ケアや終末期ケアの質の評価や実態調査」などです。また、本分野はいくつかの全国的なプロジェクトに中心的な立場で参加しています。



本分野の卒業研究は、上記のテーマをもとに教員が参加しているプロジェクトの中の一部のデータの分析を行います。例えば平成22年度の卒業研究のテーマは以下のようなものでした。卒業研究の結果は、殆どが教員や共同研究者によって国内の学会で発表され、海外あるいは国内の学術雑誌に投稿されています。

卒業研究では、大規模研究の一部を担い海外に通用する研究成果に貢献してくれており、学生もそのような研究に触れることにより将来的には、自らが第一線で国際的に評価される研究を担う人材に育って欲しいと思っています。

[平成22年度卒業研究一覧]

- 緩和ケア病棟で亡くなった患者の遺族の医療用麻薬に対するイメージに関する研究—J-HOPE studyにおける遺族調査—
- 緩和ケア病棟で亡くなった患者の遺族の緩和ケア病棟に対するイメージに関する研究—J-HOPE study—
- 緩和ケア病棟で亡くなった患者の遺族の緩和ケアに対するイメージ—J-HOPE Study から—
- 緩和ケア病棟で亡くなった患者の遺族による緩和ケア病棟の質の評価と施設要因の関連—J-HOPE 研究の結果から—
- がん診療連携拠点病院の遺族による緩和ケアの質の評価と施設関連要因に関する研究—J-HOPE 研究より—
- 在宅ホスピス緩和ケアを受けて死亡した患者の遺族による緩和ケアの質評価と施設背景との関連—J-HOPE による遺族調査から—
- 緩和ケア病棟で死亡した患者の遺族によるホスピス・緩和ケアの構造・プロセス・アウトカム評価は死別後の時間経過によって変化するか
- 進行がん患者のがん治療・緩和ケアに関する要望—OPTIM 研究介入前調査における自由回答の分析—
- がん患者の遺族の緩和ケアに関する認識の自由回答の分析—OPTIM プロジェクト介入前調査—
- OPTIM 研究における看護師の緩和ケアに関する認識—緩和ケアプログラム介入前の自由回答分析—

## 平成22年度医学部医学科三年次基礎医学修練発表会について

医学部医学科運営委員会

委員長 **柴原 茂樹**

医学科基礎医学修練発表会

実行委員会委員長 **河端 真広**

平成22年度の基礎医学修練発表会は、去る3月10日(木)と11日(金)の2日間、学生全員参加のもとに実施されました。



発表の様子

口演発表38演題、ポスター発表17題が発表され、活発な

討議が交わされました。今年は例年とは違い、3年次学生の評価に加え、発表の評価に教員も加わっていただき、より内容に重点をおいた公正な評価を目指しました。



教員による評価



ポスターセッション

口演終了後のポスターセッション中に未曾有の大地震が

発生し、発表会を完全に終えることはできませんでした。参加者全員が無事に避難することができました。



優秀者表彰式

そこで、教職員・学生の協力のもと、4月25日(月)開催の3・4年次オリエンテーション冒頭に基礎医学修練発表会の優秀者表彰式を開催いたしました。

今年の基礎医学修練発表会も多くの方々を支えられて開催することができました。特に、後援会からの多大なご支援により、発表会の運営費を確保することができ、新しい試みである教員による発表の客観的な評価および昨年度からのポスター発表を円滑に実施することができ、質の高い有意義な発表会を行うことができたと考えております。

学生、教員を代表し、医学部後援会のご高配に対し、心よりお礼申し上げます。

## 医学部A0入試合格者との懇談会開催について

医学部医学科長 **柴原 茂樹**

医学部保健学科長 **吉沢 豊子**

平成23年度医学部A0入試合格者との懇談会を、去る、2月15日(火)に次のような趣旨で開催いたしました。

- キャリアパス支援の一環として、早期に医学部教育や大学院進学制度等を説明する。
- 入学前に課題を与え継続した学習を促す。

初めに、医学部保健学科大講義室において、医学科と保健学科の合格者を集め、堂浦克美教授(神経化学分野)からスケジュールの説明があった後に、学科ごとに別れて教員・大学院学生との懇談会を行いました。

☆医学科の第一部においては、教員及び新入生の皆さんが、それぞれ自己紹介を行い、昼食を取りながら学部教育や大学院教育についての説明を行いました。

東北大学の特徴である「研究第一主義」に基づき、研究医養成プログラムの内容を紹介し、将来、東北大学を担う医学研究者・医師を目指して欲しい旨の説明がありました。また、第二部では、大学院学生が新入生の間に座り、医学生時代の体験談について紹介し、懇談を行いました。

懇談会終了後も、石井直人教授（免疫学分野）が新入生を研究室に案内し、研究室の雰囲気を紹介しました。新入生同士での会話も弾み、大学生活での最初の友達を作ることができたようです。



医学科 大学院生との懇談の様子

☆保健学科においては、はじめに保健学科大会議室において、全体説明と大学院学生による研究紹介などを行いました。

その後、看護学、放射線技術科学、検査技術科学のそれぞれの専攻に分かれて昼食を摂りながら懇談会（質問コーナー）

を行いました。

懇談会においては、大学院学生を交えて研究活動や学生生活などリラックスした雰囲気です。話しが弾み、新入生にとって大変有意義な懇談の企画となりました。



保健学科 懇談会の様子

最後に、医学科・保健学科合同で山本雅之医学部長から、医学部入学に当たっての祝福と励ましのメッセージをいただきました。



山本医学部長からのメッセージ

最後になりましたが、この懇談会を開催するにあたり、医学部後援会の御理解をいただき必要経費の助成・御支援をいただきました。大変ありがとうございました。

## 医学分館学生用図書の整備・充実について

東北大学附属図書館医学分館長  
柴原 茂樹

医学分館は、医学系の図書館として星陵キャンパスに設置し、学習に必要な図書や快適な学習環境を提供しております。

医学部後援会から、昨年度（平成21年度）は、『細胞の分子生物学』及び『ハリソン内科学』といった高額の医学の基本書の購入についてご支援いただき、これまで多くの貸出をみるなど有効に活用させていただいております。

引き続き、今年度も学生用図書の整備にご支援いただけることとなりましたので、厚くお礼申し上げます。

今年度は、学生の利用が多かった基本書やシリーズの新版補充を行うほかに、医学・医療に関する読み物も整備できました。志のある若い方々には、日々の基本的な学習の合間に、気軽に読めてかつ広い視野を培うことができる教養書も有意義なものと考えております。この度、購入した図書一覧は、次のとおりでありました。

また、去る、3月11日の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の被害により、しばらく館内の図書の利用ができなくなっております（3月末時点）。利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしていますが、そのような中でも、幸い医学部後援会からご支援いただきました図書は、1階に展示していたため難を逃れました。現在も館内で閲覧は可能です。



震災の影響の中、遅い新学期を迎える学生の皆さんには、少しでも早く落ち着いて学習に取り組める環境を提供できるよう、館員一同全力を尽くしております。

この場をお借りし、医学部後援会に改めて感謝申し上げ、御報告しお礼申し上げます。



図書のタイトル名	
1	解体新書の謎 / 大城孟著
2	腫瘍免疫学 / 折田薫三著
3	カパンジー機能解剖学 カラー版 / A.I. Kapandji セット3冊
4	内分泌代謝疾患レジデントマニュアル（第3版）
5	一目でわかる腎臓 第2版
6	一目でわかる不整脈 第2版
7	一目でわかるニューロサイエンス 第3版
8	一目でわかる微生物学と感染症 第2版
9	一目でわかる心血管系 第2版
10	一目でわかる小児科学 第2版
11	視診・触診でわかる内科疾患の診かた
12	循環器病学：基礎と臨床：カラー版 / 川名正敏
13	カールソン神経科学テキスト：脳と行動 / Neil R. Carlson
14	図解耳鼻咽喉科
15	私は見た！ルボ看護という仕事
16	学生のための精神看護学 / 吉浜 文洋
17	医用画像情報学 / 下瀬川幸幸編著
18	超実践マニュアル MRI 改訂版 / 小倉明夫
19	臨床検査法提要 第3版

## 平成23年度医学部新入生オリエンテーションを開催しました

医学部医学科長 柴原 茂樹  
医学部保健学科長 吉沢 豊子

去る、平成23年3月11日の東日本大震災の影響で、3月の学位記授与式及び4月の入学式が中止となり、東北大学も全学休校となりました。

震災が残した爪跡は大きかったのですが、4月7日以降は大きな余震もなく、無事、学生を迎え入れることができると判断して、東北大学では5月6日（金）に、平成23年度医学部新入生オリエンテーションを行いました。

残念ながら、入学式と入学記念祝賀会の式典は中止となりましたが、総長からのメッセージを全ての学部においてDVD映写し、新入生の皆さんへ総長からのお祝いのことばをお伝えしました。



総長メッセージ（DVD映写）

☆開催日時：医学科：5月6日（金）9：15～  
保健学科：5月6日（金）9：00～

☆実施内容：初めに、今回の東日本大震災で犠牲になられた方々に対して1分間の黙とうを行いました。

○医学科では、午前中に教育カリキュラムなどに関する説明を行い、昼食時には、アドバイザー教授と食事を摂りながら懇談しました。

午後は小児感染症・B型肝炎抗原抗体検査のための採血、医師のプロフェッショナリズムに関する意識調査を実施しました。引き続き、東北大学のディスティンディッシュト プロフェッサー\*として活躍されている大隅典子教授（発生発達神経科学分野）による特別講演を開催し、また、震災関連として、東北大学病院放射線部 神宮啓一先生による放射能に関する特別講演を行いました。

最後に、在校生によるサークル紹介を行い、教員・在校生全体で新入生を迎え入れることができました。



山本医学部長あいさつ

○保健学科では、午前中に全体説明会を行った後、午後は看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻それぞれのオリエンテーションを行いました。専攻ごとのオリエンテーションでは、チューター教員と新入生との昼食懇談会を実施しました。ベテランの先生から若手の先生まで多くの教員がチューターとして参加し、保健学科での学業や学生生活などについて新入生と懇談を行いました。引き続き、パソコンルームに移動し、情報セキュリティ講習会を行い、小児感染症・B型肝炎抗原抗体検査のための採血を行い終了しました。



在校生による出迎え



サークル紹介

例年、医学部後援会から昼食代などのご援助をいただき、お陰様を持ちまして新入生と教員の距離も縮まり、緊張していた新入生もリラックスできたようで有意義な時間を過ごすことができました。大変ありがとうございました。

今年の新入生オリエンテーションの様子は、東北大学医学部ホームページに掲載しております。ぜひ後援会会員の皆様にもご覧いただければと存じます。

※東北大学医学部動画サイト

<http://www.med.tohoku.ac.jp/mov/index.html>

\*ディスティンディッシュト プロフェッサーとは、教育、研究、社会貢献などの分野において先導的な役割を担う教授を尊重し、その活動をサポートする制度です。大隅教授は、生命科学系のグローバルCOE拠点リーダーとして、研究と社会貢献にご活躍されております。



新入生

## 医学部保健学科の謝恩会について

平成22年度医学部保健学科

謝恩会実行委員長 熊川 徳長

始めに、この度発生しました、東日本大震災によりお亡くなられた方々に慎んでお悔やみ申し上げます。

本来であれば、去る3月25日に執り行われる予定でした卒業式及び謝恩会は中止されることになりました。謝恩会実行委員として、準備して来たことが徒労に終わってしまったことよりも、大変お世話になりました先生方・指導者の方々に私たちの感謝の気持ちを伝えることができなかったことが、本当に残念でなりません。

卒業してから学生生活を振り返ってみると、先生方というのは学生の周囲の大人の中で最も学生の将来に関わっていただけの存在であったと思います。

先生方から教えて頂いたことは、これからの私たちの人生に大きく影響してくるのだと思います。これから社会人としてお教え頂いたことを様々な形で社会のために役立てて行かねばならないと感じております。そして、叶うのであれば、いつの日か、平成22年度の謝恩会をあらためて開催できればと願っております。

最後に、準備に際しましてご協力いただいた先生方及び大学院生の丹治先輩に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

また、被災地の復旧・復興と被災された方々のご多幸をお祈りいたします。

## 東日本大震災により被災された方へのお見舞いについて

この度[平成23年3月11日(金)午後2時46分ごろ]発生した、東日本大震災によって被災されました皆様には、謹んでお見舞い申し上げますとともに、亡くなられました方々の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

被災地の皆様は大変な思いを持ちながら、復旧・復興に向けて御努力をされていることと存じます。

東北大学医学部においても、震災の当初から教職員及び学生の安否の確認、情報伝達、広報体制の整備など、そして、学生への経済的・生活支援の活動を行っております。

この大震災により後援会会員(医学部学生の保護者)のなかに、被災した会員が数名おられましたので、東北大学医学部後援会においては、会員の子弟である学生に対して心ばかりのお見舞いの気持として援助させていただきました。

本学部学生の皆さんが、この災害に屈することなく、東北大学医学部入学時の初心を貫かれますよう望んでおります。

平成23年6月1日

東北大学医学部後援会

## 編集後記

医学部後援会が発足してから早4年を経過しようとしております。

今年は年々低下を来たしている後援会の加入率を少しでも高めたい、そのためには4月初旬の東北大学入学式実施後の本後援会の主催事業である「入学記念祝賀会」において後援会の存在を大いにPRしようと企画をめぐらしている時期に、誰もが予測し得ない、あの「東日本大震災」にみまわれました。

後援会といたしましても、改めて被災された皆様にご謹んでお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

後援会では、被災されました会員のご子息に心ばかりのお見舞いをさせていただきました。

今年度実施できなかった「入学記念祝賀会」を来年は実施したいと考えております。

また、例年どおり医学部の各種事業及び学生の活動事業などに支援をしてみたいと決意を新たにしております。

今後とも医学部後援会へのご理解とご協力をよろしく願います。

仙台七夕まつり



吹き流しや仕掛けものなどの趣向を凝らした竹飾りが街を色鮮やかに彩る「東北三大まつり」のひとつ。毎年8月5日は前夜祭の花火大会が行われ、本祭は6～8日開催される。

光のページェント



定禅寺通りと青葉通りのケヤキ並木が、数十万個のイルミネーションに包まれ、幻想的な光の回廊を演出。毎年12月12日～31日まで開催される。



## 東北大学医学部後援会事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1

TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp

http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/